

歌川広重「名所江戸百景 小奈木川五本まつ」

NO. 2015.9.30

発 行 江東区地域振興部 文化観光課文化財係 〒135-8383 江東区東陽4-11-28 TEL(03)3647-9819

http://www.city.koto. ℓg.jp/

- ○平成 27 年度 文化財保護強調月間 歴史と文化を考えよう
 - 民俗芸能大会・文化財講演会 東京 9 区文化財古民家めぐり

 - ・江東区伝統工芸展
- ○所蔵資料紹介

「深川八幡宮境内に於いて 大江忠兵衛生人形興行刷物」

- ○江戸の町内探訪®
 - 「元木場町」

考えよう」と銘打って、普段見ること

会に江東区の歴史や文化に触れ、 業や講演会を行います。ぜひ、この のできないさまざまな文化財の公開

理

解

うになったこの時期、

「歴史と文化を

季節を乗り越え、

涼しい風を感じるよ

強調月間」の季節でもあります。

暑

10~11月は「文化財保護

- [泡盛の壺] 発見! ~泡盛が結ぶ沖縄と江東~
- ○文化財まめ知識5 江東区内の富士塚
- ○情報ステーション展示 徳利・絵葉書「豊洲石炭埠頭」

昔から受け継がれた伝統の技を見る この季節の一日~~を楽しみま

外に出るのが辛くなるほどでした。そ

も続くなど、本当に暑かったですね。

ところで、今年の夏は猛暑日が

何

のです。読書やスポーツをするのも秋、

秋は外での時間を謳歌したい

もので、 民家を、 り」と題した事業を催し、 頁に紹介しておりますので、ぜひご覧 コーナーもあります。 を行います。江戸時代に建てられた古 を深めていただければと思います。 ください。 して東京区政会館 て発見!はじめよう文化財古民家めぐ また、 さまざまな角度から紹介する 東京9区が共同で、「 江東区南砂の旧大石家住宅 (千代田区) いずれも2・ 関連事 来て見 で展 行と

よ よ秋本番です!

暑い夏も終わり、

民俗芸能大会 10月18日(日) 会場 都立木場公園

【午前11時~12時30分】

ホ場の角乗 場 所 木場公園内入口広場 東京木場角乗保存会

まれました。 た。角乗は、その仕事の余技として生 鳶口一つで材木を筏に組んでいまし 江戸時代、 木場の筏師 (川並) は、

【午後1時~3時50分】

水場の水遣 場所 木場公園内ふれあい広場 木場木遣保存会

歌です。 いの息を合わせるため、歌われた労働 木場の川並衆が材木を操る時、 お互

水場の水遣念仏 木場木遣保存会

手繰りながら念仏を唱える大変珍しい 木場に伝えられたもので、 大数珠を

砂村囃子

葛飾区葛西神社)の神官が百姓に教え た祭囃子の流れを汲むお囃子です。 江戸時代中期に金町の香取明神社(現 砂村囃子睦会

一岡八幡の手古舞

富岡八幡の手古舞保存会

という粋ないでたちで練り歩きます。 ち、木遣を歌いながら、男髷に裁着袴富岡八幡宮の祭礼で神輿の先頭に立 辰巳芸者が行いました。

深川の力持

辺りで、米俵や酒樽などの運搬をする 人々の余技として芸能化しました。 江戸時代から倉庫地帯であった佐賀

を中心に一」











文化財講演会

深川力持睦会 |名所絵に描かれた深川の魅力 歌川広重「名所江戸百景」

委員)にお話していただきます。 安村敏信氏(江東区文化財保護審議会 ゴッホへの影響などをまじえながら、 域の名所を中心に、浮世絵の初摺や 名所江戸百景」に描かれた江東地

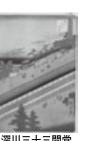
日 11 月 11 日 水

場 深川江戸資料館2階小劇場 午後6時30分~8時30分

슾

定 員 200人(先着順)※入場無料

(江東区白河1-3-28)



深川三十三間堂

東京9区文化財 東京文化則ウィーク 2015

期 と題した展示を行います。 区飯田橋3-5-1) 1階エントランス 参加して、文化財となっている古民家 の期間に「次世代へ継承する古民家 ホールでは、10月7日(水)~ を紹介します。東京区政会館(千代田 江東・杉並・世田谷・練馬・目黒) 都内9区 10月1日(木)~11月30日 (足立・板橋・江戸川・北・ 29 日 月 が

ます。 ない解説シートも置いています。 である旧大石家住宅が、 江東区内には、江戸時代の民家建 (南砂5-24地先)に保存されて この期間には、 通常配布して 仙台堀川公園

公開日 間 午前10時 土曜日・日曜日・ 休日

入口広場 ------ 深川不動堂 ふれあい広場 木場公園 | 富岡八幅 会場 ●都立木場公園(木場4丁目)入口広場 ふれあい広場 **交通**

- ●東京メトロ東西線「木場駅」下車徒歩5分 ●都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」·都営
- 地下鉄新宿線「菊川駅」下車徒歩15分 ●都営バス <u>業10</u> 〔とうきょうスカイツリー駅 前~新橋〕木場4丁目下車

都営大江戸線 深川神明宮 森下五丁目 小名木川 清洲橋通り 深川 江戸資料館

日時 10月30日(金)~11月3日(火·祝)

深川江戸資料館 地階レクホール(江東区白河1-3-28) 午前9時30分~午後5時 ※最終日は午後4時まで

技の体験(実費がかかります)

本展では、伝統工芸の技を受け継ぐ

会場

午後1時~3時 午前10時~正午 体 左日程表のう 験 ができま の技 術

験が可能なものもあります。

伝統工芸品即売(会期中)

会場内で、江東区伝統工芸保存会に

直接職人さんに申 し出てください。

申込は会場で

ます (左日程表参照)。受け継がれて 区無形文化財保持者による実演を行

きた伝統の技をご覧ください。また体



とない機会ですので、ぜひどうぞ。 よる工芸品の即売が行われます。また

深川江戸資料館 案内図



- ●東京メトロ半蔵門線·都営地下鉄大江戸線 「清澄白河」駅下車 A3出口 徒歩3分
- ●都営バス門33系統「清澄庭園前」下車 徒歩3分
- ●都営バス秋26系統「清澄白河駅」下車 徒歩4分

実演公開日程表

	美 演公開日程表	
	技術「体験内容」	保持者
10/30	あめ細工	青木 喜
(金)	紋章上絵	石合信也
	木彫刻	渡邉美憲
	べっ甲細工「ペンダント・名札を	磯貝
	磨いて仕上げよう」	
	費用①ペンダント 2,000 円	
	②名札 5,000 円	
	表具 「一閑張の器をつくろう」	岩崎 晃
	費用 1,000 円	
	建具	友國三郎
10/31	あめ細工	青木 喜
(土)	庖丁製作	吉澤操
	染色補正	丸田常廣
	無地染 「スカーフを染めてみよう」	近藤良治
	正絹(長さ約 90cm×幅約 35cm)	
	費用 2,500 円	
	江戸指物 「箸・小箱をつくってみよう」	山田一彦
	費用①箸 1,000 円②小箱 1,500 円	
	手描友禅	和田宣明
11/1	あめ細工	青木 喜
(日)	江戸切子 「カットをしてみよう」	小林淑郎
	直径約 16cmの皿 費用 1,000 円	
	木彫刻 「文字を彫ろう」	岸本忠雄
	費用①桐の文箱 2,500 円	
	②姫小松の板 1,500 円	
	相撲呼出し裁着袴製作	富永 皓
	鍛金	佐生明義
	更紗染	佐野利夫
	「刷り染めで東海道五十三次額絵を染めてみよう」	佐野勇二
	費用 2,500 円	
11/2	あめ細工	青木 喜
(月)	刀剣研磨	臼木良彦
	江戸指物 ※内容は10月31日と同じ	山田一彦
	すだれ製作 「すだれを編んでみよう」	豊田 勇
	※色紙掛けができます 費用 500 円	
	建具	友國三郎
11/3	あめ細工	青木 喜
(火・祝)	帯製作	杉浦正雄
	紋章上絵	亀山晴男
	襖榾・襖椽	鈴木延坦
	刀剣研磨	臼木良彦
	更紗染 ※内容は 11 月1日と同じ	佐野利夫
		佐野勇二
	すだれ製作 ※内容は11月2日と同じ	豊田勇

(順不同・敬称略)

※都合により変更する場合もあります。ご了承ください。

の技術は体験ができます。申込みは当日会場で。

所蔵資料紹介

大江忠兵衛生人形興行刷物」深川八幡宮境内に於いて

本資料は、大坂の人形師大江忠兵衛 本資料は、大坂の人形師大江忠兵衛 行った生人形見世物興行を描いた墨刷 りの刷物で、絵師は歌川国鶴、板元は 山城屋新六です。開催場所を、資料では「深川八幡宮」(富岡八幡宮)としは「深川八幡宮」(富岡八幡宮)としていますが、幕府の記録などでは永代ていますが、幕府の記録などでは永代でいますが、幕府の記録などでは永代でいますが、幕府の記録などでは永代寺は富岡八幡宮を管理する別当寺とされている場合もあります(当時、永代寺は富岡八幡宮を管理する別当寺とされている場合もあります(当時、大坂の人形師大江忠兵衛 本資料は、大坂の人形師大江忠兵衛

この興行は成田山新勝寺の出開帳に この興行は成田山新勝寺の出開帳に ともなって催されたもので、和藤内 にではなり、ではないで、神藤の後ごと (国性爺合戦) や伊弉諾尊・伊弉冉尊、 でいまでも、までない。と (国性命合戦) や伊弉諾尊・伊弉冉尊、 でいまでも、までは、大入 りになったそうです。その人気ぶりか らか、この見世物をテーマとした浮世 らか、この見世物をテーマとした浮世 になったそうです。その人気ぶりか

有名な寺社が江戸まで出張して本尊な行われ、市民の娯楽空間(盛り場)とや珍品陳列などをする見世物が盛んにや珍品陳列などをする見世物が盛んにいた。

を集めました。 で行われ、娯楽を求める人々の注目 で行われ、娯楽を求める人々の注目 ではさまざまな見世物興行もあわ ではさまざまな見世物興行もあわ との仏像や貴重な宝物を公開する出開

生人形はこうした見世物の一種で、大気を集めました。生人形は、幕末から明治期にかだったことから「生人形」と称されまだったことから「生人形」と称されまけて見世物興行の代表的出し物としてけて見世物興行の代表的出し物の一種で、人気を集めました。

を行って活躍しました。 大江忠兵衛は、この生人形を製作し

庶民文化の様相が伝わってきます。 見えるとともに、江戸時代に花開いた 川で行われた見世物興行の一端が垣間 川で行われた見世物興行の一端が垣間 いたの興行刷物からは、深 いますが、この興行刷物からは、深

(斉藤照徳



江 戸の町内探訪8 元木場 町

域を取り上げ、 今回 この町名はひとつの町の名では は、 ある共通の性格をもった複数の かつて元木場と呼ばれた地 ご紹介いたします。

ひとつは隅田川に沿った地域(佐賀・ が二カ所あったことをご存じですか。 永代・福住付近) 江 時代、 もう一つは現在の木場公園を 区内に木場(「木置場」) でのちに元木場と呼

そのことを指します 移ったのです。 と南側一帯)に移り、2年後の同14年 は一時的に猿江(現在の猿江恩賜公園 備するため、土地を召し上げ、 年 置場が、寛永18年 つまり二ケ所の木置場は時期をずらし に現在の木場周辺地域に移りました。 たのが始まりです。 後に隅田川の東側 含む周辺地域 本橋・京橋辺りにあった材木問屋の木 (1699) に幕府はこの地域を整 隅田川沿いから木場公園周辺に です。もともと、 (木場・ 「二カ所あった」 $\begin{pmatrix}
1 \\
6 \\
4 \\
1
\end{pmatrix}$ (元木場) その後、 現在の中央区日 に移され 木置場 元 禄 12 の大火 とは

を境に北と南で大きく 様相が異なります。 図」をみると、仙台堀 「本所深川絵 北

木場

は元木場各町 (東に離れた久永町1・2丁目 富岡町を除く)

は武家地



図1 本所深川絵図(嘉永5年、部分)

元木場

に対し、 たとあります。材木町、 町人が買い受け、 に生まれ変わったと考えられます。『町 らさらに東に移った木場への材木搬送 られると、水路も整備され、元木場か えます。その後、 付近が木置場であったことの証とも 埋め立てられずに残ったもので、この です。元禄12年に召し上げられたのち、 た頃に設けられた水路 1)。この堀割は、ここが木置場であっ と浮かんでいるように見えます くの町が周囲を堀に囲まれ、ポッカリ いました。 部地域の多くは武家地と寺地であるの 舟運による物資輸送に適した環境 南部は町人地が多くを占めて 堀割が縦横に走るため、 整備されたこの地域 地域のかたちが整え それぞれ町名を唱え (図2) の 一 永堀町、 東 図 多 部

小名木川

仙台堀

図2 深川総画図(1658~82間の成立)(部分) 田町、 代町、 が勤めました。同家は、駿河国 で市郎次が管理)以外、 村町が加わり21ケ町となりました。 さらに松賀町拝借屋敷、 (1596 - 1615)万年町1~3丁目の14町が成立し、 で田中姓を唱え御用を勤め、 名主は松村町

総名は「

元木場町」と唱えら

(元木場町組合持ち

すべて市郎次

(静岡

慶長

久永町1・2丁目、

富岡町、

松

そ

伊沢町、

三角

堀川町、 西永代町、

松賀町、

小松町、

富久

今川

町

JİΙ

町

冨

元木場堀割

リア げ降ろしする河岸が設けられ、 ると、 武家屋敷があります。 商業と密接に関わる町人地が堀割に面 になっています。各町には、 に材木町と、堀に面した三方が町人地 めるように命じられたとあります。 していたことがわかります。 図1のAエリア拡大図 北に永堀町、東に東永代町、 も同様の町割りになっており、 東側の町 (下 図) 物資を上 内側に B I を見 南

さらに元禄13年当地に移り、

名主を勤

の頃に浅草へ、

の町の発展に大きく寄与した一例とい このことも、 流通の拠点のひとつとなっています。 に干鰯場(永代場)が設けられ、また、西永代町と小松町には、 元木場の堀割が、 その後 干鰯 のち

(文化財主任専門員 出口宏幸

【**泡盛の壺】発見!** ~泡盛が結ぶ沖縄と江東~

東区の関係の一端をご紹介します。 は戦前期の江東区域での泡盛の流通・販売について触れ、 ことが窺えます。このコーナーの前半では壺の詳細について、後半で (昭和前期)に泡盛の容器として運ばれたあと、工業用に転用された 平成23年、 泡盛の壺が江東区で初めて出土しました。壺は戦前期 沖縄と江

北砂3丁目出土の壺について

たので現地を見てほしいとの連絡が文 地点で、壺 6号のコンビニエンスストア建設予定 平成23年8月22日、北砂3丁目3番 検出レベルは工事の掘削深度であ 壺はその中央に置かれた状態でし (写真1・図1) が出土し 近現代の

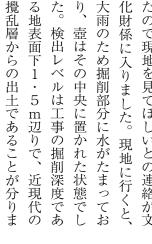




写真1·図1 出土した壺

所有者のご理解をいただき、この壺を 明です。現地立会調査の終了後、 江東区で引き取らせていただくことに なりました。 した。このため、廃棄された時期は不 土地

確認できます。 その間にヘラ書き1ヵ所 (写真2) が た。肩部に2つの耳 いたものの、接合するとほぼ完形でし 壺は口縁から肩部にかけて割れて 胴部中位に沈線 (双耳)が付き、 (写真

の文字を配しています。

時計回りに

「沖縄縣

(陶器)

工業組合 外円には

量」の文字を十字状に配し、

が押されています。内円には「検査」「液

の黒色系インクのスタンプ

(写真4)

(外円径3・9㎝、

内円径2・2㎝

するのかは不明です。

【スタンプ】肩部ヘラ書きの上に二重



掛けられていま 位にかけて釉が

2ヵ所**(写真5)** は背中合わせとなっ

所は漆喰と考えられます。 物質が付着しています。

他の内外面

うち外面3ヵ

ます。そして、 2) が廻ってい

[縁から胴部中

情報ですが、 焼成時までの ここまでは壺 他

荒く塗られています。

産地および器種は、

究者の方

ん。

漆喰に似ていますが、

前者に比べ

ており、

穴を補修した跡かもしれませ

のアラビア数字「118」が黒色系塗 に焼成以降の痕跡が認められます。 【手書きの数字】 肩部2ヵ所に手書き

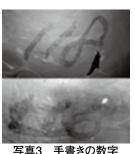
盛

(米が原料である沖縄県産の蒸留

のと考えられます。漆喰は沖縄県内で

漏れを検査した際に押されたも

する壺屋窯の荒焼(無釉陶器)で泡のご指摘で、沖縄県那覇市近郊に存在



手書きの数字

7

写真3

料 1 1 8 (写真3)。 ŀλ 書 で ま か 横ぅ す 位い n

が何を意味

白色物質の付着(内面)

ました(平成 クイ)と判明

江東区において2例目とな 形状から昭和7~ 部の破片が出 立会調査で、 13番6号地点 年に木場6丁目 肩

です。 ものと考えられます。釉はマンガンと 後の製作時期と考えられます 県陶器工業組合によるもので、泡盛(液 き締った製品に見えるように掛けたそ 具を被せることによって、 焼物博物館紀要』第8号、 りました)。 うです。肩部のヘラ書きは判と呼ばれ 生焼けのように赤くなるため、 とおり一斗(18リットル)以上は入る しており、 がどこの屋号・家名を指すのかは不明 の崩し字と考えられます(内間靖 る陶工などを表す印で、この判は いうもので、 容量は測っていないのですが、名称の (ハン)について」『壺屋焼物博物館紀 ・壺屋焼の荒焼(アラヤチ) 第3号、平成14年)。 スタンプは昭和11年設立の沖縄 窯詰めの時に筒型の窯道 なお、 壺上半部が 平成19年)。 **壺**『壺屋 黒く焼 (内間靖 10年前 牛 判

写真4

内面2ヵ所 面 5ヵ所 〜下位の外

に白色系の

スタンプ

他、

胴部中 上

以

0

(トゥッ

入れ

る

ようです。 損した部分を補修する事例が含まれる も付着している事例があり、中には破

一斗壺は主に泡盛を入れる容器とした。なお、沖縄県外の出荷用の容器として「壺屋で生産される一斗壺が主として「壺屋で生産される一斗壺が主として「壺屋で生産される一斗壺が主として使用された」と、瑞泉酒造株式として使用された」と、瑞泉酒造株式として使用された」と、瑞泉酒造株式として使用された」と、瑞泉酒造株式としています。

使われていたのかもしれません。 使われていたのかもしれません。 でで、一斗壺はどのような用途に転用されたのでしょうか?東京近郊の農村では茶葉や種籾を貯蔵する容器とした。 で転用した事例が知られています(小田静夫『泡盛の考古学』勉誠出版、平成12年)が、北砂出土のものはアラビ成12年)が、北砂出土のものはアラビル12年)が、北砂出土のものはアラビア数字の書き込みなどから工業用として転用された可能性が高いと考えられます。江東区域では焼酎甕や硫酸瓶が多くす。江東区域では焼酎甕や硫酸瓶が多くす。江東区域では焼酎甕や硫酸瓶が多くから工業で使われていません。

表 江東区域における"泡盛商"(昭和8~10年時点)								
地図No.	店名		代表	所在地(現表示)	備考			
1a	三島泡盛本舗(三島商店)	本店	川村禎二	安宅町7(新大橋1-3)	川村氏は鹿児島県川辺郡(現南さつま市)出身。 大正12年11月に、先代(池田氏)から店を引き継ぎ、黒糖・泡盛販売店から泡盛専門店(「王国印			
1b		清砂支店	川州領—	白河町3-1 (白河3-7)	っ、無備・氾盗販売店がら氾盗等口店(「王国印クース」など販売)へ。屋号「全」。当時、清砂・上野・浅草・小岩・横浜に支店あり。			
2	山利喜		山田利喜造	東森下町40(森下2-19)	飲食店。大正14年創業。現在、本店は創業時の 土地付近(森下2-18)で営業中。			
3	崎山商店		崎山喜昌	東森下町109(森下3-5)	泡盛・黒砂糖卸商。屋号「守」。店は伊予橋際に あった。			
4	?		平良幸盛	石島町163(石島10)				
5	新垣恒儀商店		新垣恒儀	牡丹町3-11-2(牡丹3-18)	泡盛卸商。屋号「×」。販売する泡盛の醸造元は 首里市金城町3-78(現在の那覇市首里金城町)。			
6	?		屋宜盛繁	永代町1-10(永代1-12)				

「東京琉球泡盛商一覧」(『南島(郷友版)』第三号)、『沖縄縣人物風景写真帖』、『沖縄県人物風景写真大観』の広告記事を基に作成。敬称略。



図2 壺出土地点と"泡盛商" の位置

深川、

神田、

浅草あたりに泡盛屋がで

琉球泡盛ののれんも目につくよう

たそうです。

「東京においては、

本所、

東京・大阪への出荷が活発」になっ

調な伸びをみせ、

昭和10年頃から、

和8年以降の泡盛の

「県外移出高は

前

出

0)

。 泡盛とともに』によれば、

名もしくは店舗名) がいたことが分り、と、東京35区のうち23区に 〝泡盛商〟(人



掲載の「東京琉球泡盛商一覧」を見る

況だったのでし

ようか。

南

一号

(南島社

昭和8年3月

いて泡盛の流通・販売はどのような状

江東区域

(深川区・城東区)にお

江東区域における泡盛の流通・販売

北砂出土の一斗壺が焼かれた昭和前

写真6 『三島泡盛本舗』 本店(右)と店頭の壺(左)

『沖縄県人物風景写真大観』 昭和10年(沖縄県立図書館所蔵)



社、 うに縄を巻いていたと推定されます。 りませんが、 耳の下辺りまで縄を巻いていることが **真6右)**の店頭には一斗壺など泡盛の います。うち、『三島泡盛本舗』本店(写 1 件 確認することができます 城東区は0件ですが、深川区は6件を 壺を並べているのが見えます(写真6 "沖縄県人物風景写真大観] a b のうち、 昭和10年) ちなみに、 の写真入り広告が掲載され 北砂出土の壺には痕跡はあ 1店舗1支店 転用される前は写真のよ の巻末には、 写真では壺の底から (表・図2)。 (表・図2-(沖縄通 前出の6

今回、北砂で出土した戦前期の泡盛の壺をご紹介しましたが、当時、江東区域に泡盛取扱店が存在しており、泡区域に泡盛取扱店が存在しており、泡の一点ででででは、近点では、水砂で出土した戦前期の泡盛

おわりに

は珍しいものではなかったようです。となどから、東京の人々にとって泡盛泡盛が安価な酒として飲まれていたこになった」ことや、大衆食堂において

称略・順不同)。 きました。厚く御礼申し上げます(敬方々・機関にご教示・ご協力をいただ

日通商事株式会社、沖縄県立図書館京都埋蔵文化財センター)、新城栄徳京都埋蔵文化財センター)、新城栄徳京都埋蔵文化財センター)、新城栄徳京都埋蔵文化財センター)、新城栄徳

(文化財専門員 野本賢二)

文化財まめ知識5 区内 の富士塚

という形が基本です。現在の江東区域 違いはありますが、頂上に石祠、 代には、富士山を信仰の対象とする富士を付けて呼ぶこともあります。江戸時 造の小山です。「~富士」と頭に地名 手に烏帽子岩を置き、 の向かって右手に小御嶽、 とされました。富士塚は実際の富士山 ことで富士登山と同じ御利益を得られる 富士登山できない人々は、 富士講の活動のひとつが富士登山です。 講という信仰組織が多数成立しました。 山の溶岩塊を配置して造り上げた、 には3つの富士塚があります。 の造形を真似て造られており、 富士塚は、 その表面に黒ボクと呼ばれる富士 土を富士山の形に盛り上 山裾に胎内洞穴 富士塚に登る 向かって左 個別の 中腹

小御岳山碑

れ、塚に登れます。

左側面の上部には

①現在の亀戸の富士塚

古い富士塚です

造られた年

された記録のな す(①)。移築

区内で最も

営するため昭和 塚上に社殿を造 代は不明です。

の土山でしたが、水害で形が崩れたた どめています。当初は土を盛っただけ



も旧態をと なかでは最 る富士塚の 内に現存す

を外し、 碑を移動さ 面の黒ボク を削り、 時代に上 旧態をとど せたため 側 面



②小御岳山碑

め

昭和8年

(1933) に黒ボクで

います 烏帽子岩碑 固 めました。 現されて

6

があり、

胎内洞穴が

〈9月下旬~10月下旬〉

釘書き」の徳利

江戸城周辺の遺跡では、

美濃

小御嶽神社石祠

<u>(5)</u>

Þ

ココにも歴史が

あ つ

た

情報ステーション展示

③烏帽子岩碑

7

⑥烏帽子岩碑

て信仰された 山吉講によっ













めていませ

ん(現在

山腹の正面および 御水講によっ在も山吉丸す 富士塚で、現

社殿は南隣に移転)。

左右に登山道に見立てた石段がつけら

で焼かれた徳利が多く出土します。 地方(愛知県瀬戸市・岐阜県美濃市

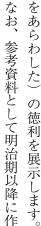
千田遺跡など江東区内の発掘調査

なお、



富

で発見された「釘書き」(器の表面を



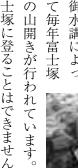
鋭利な工具で刻んでお店の屋号・記号



なお、

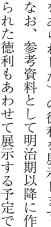






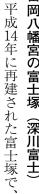








富岡八幡宮の富士塚(深川富士) 士塚に登ることはできません。



境

す。



富賀岡八幡宮(南砂7)砂町の富士塚(砂村富士)

0)

社殿の裏

浅間神社の裏金刀比羅神社・会刀比羅神社・内北西の一角、

手にあります

(④)。塚の形

が奉納した石造物が点在しています。

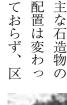
(③) のほかに、丸不二講や亀戸村の人々

(②)、石段脇に烏帽子岩碑

⑧現在の富岡八幡宮の富士塚 絵葉書「豊洲石炭埠頭

(10月下旬~11月下旬)

場」が開場します。新市場は、 移転する「東京都中央卸売市場豊洲・ 平成28年11月7日、 中央区築地 昭



にありましたが、昭和40年頃に壊され

開場1年前にあたるこの期間、

一豊洲

ガス・電力・鉄鋼の専用埠頭でした。

41年にかけて埋め立てられた豊洲埠

和 33

から

(豊洲6丁目全域) の跡地で、石炭・

もとの深川富士は、

高 さ 10

mį

石炭埠頭」の絵葉書

(東京都発行、

昭

和25年)

を展示します。

そして、

文化

富士塚は社殿の裏

(数矢小学校の西)

る石造物が並べられています。

もとの

亀戸の富士塚(本所富士・亀戸富士)

りましたが、 状は若干変わ

④現在の砂町の富士塚

川富士に関連す

手にあります

8

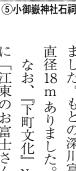
周辺に深

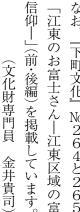
戸浅間公園

(亀戸9)

にありま







『下町文化』 No.264と265 界隈の変貌ぶりをご覧ください。 あわせて展示しますので、豊洲6丁 財係で所蔵する昭和30年代の古写真も

8